



平成25年11月22日

**「生殖補助医療技術教育研究センター」が発足し活動を開始
キックオフ・シンポジウム
「子を授かる ～生殖補助医療の現状と未来～」を開催**

＜概要＞本学に、2013年10月1日「生殖補助医療技術教育研究センター」が発足し、11月から活動を開始しました。下記のとおり、公開のキックオフ・シンポジウムを開催いたします。

日時：2013年12月22日（日）13時30分～17時

場所：岡山大学医学部 JF ホール（岡山市北区鹿田町2丁目5番1号）

主催：岡山大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センター

岡山大学病院を中心とした「がん患者の生殖医療を考えるネットワーク（仮）」の発足についてのアナウンスメントも行う予定です。

岡山大学に、2013年10月1日、生殖補助医療技術教育研究センターが発足しました。11月より、専任の教員もそろい本格始動となりました。生殖医療の領域で、生命の始まりにかかわる受精卵を扱う胚培養士ですが、現在、各施設に医学部の臨床検査関係の学生や農学部の畜産関係の学生が、産婦人科などに雇用されてから各自で経験を積んで胚培養士となっている現状があります。このため、その知識や能力の個人差は大きいという現実があります。

このセンターの主な活動内容は、以下のようになります。

- ①医学部と農学部が連携して、カリキュラムに沿って系統的に、医学部保健学科、農学部の学生を胚培養士に育成する日本初の胚培養士養成コースを運営します。
- ②現在、すでに胚培養士として働いているスタッフに足りない知識や能力を調査し、スキルアップのためのリカレント教育プログラムを開発します。
- ③日進月歩の生殖医療技術ですが、安全かつ有効に施行できる技術やシステムを開発するとともに、それを使用できる技術者の養成を行います。
- ④胚培養士の国家資格化へ向けての調査等を行います。

今回、全国的に中心的に生殖医療に関与している講師をお迎えし、公開のキックオフ・シンポジウム「子を授かる ～生殖補助医療の現状と未来～」を開催します。

日時：2013年12月22日（日）13時30分～17時

場所：岡山大学医学部 JF ホール（岡山市北区鹿田町2丁目5番1号）

がん患者の抗がん剤療法の前に、その後の妊娠のために卵子、卵巣を凍結保存する試みが始まっていますが、当センターが、そのための技術者の養成、凍結保存技術・システムの開発拠点としての機能を備えていることについて、また、同時に、岡山大学病院のがん治療の専門医なども集まり、「がん患者の生殖医療を考えるネットワーク（仮）」の発足についてのアナウンスメントも同時に行う予定です。

＜お問い合わせ先＞

岡山大学大学院保健学研究科 教授
生殖補助医療技術教育研究センター 副センター長
（氏名） 中塚幹也
（電話番号） 086-235-6895 or 086-235-6538
（FAX番号） 086-235-6895 or 086-235-6538